参考資料

第11期第９回男女共同参画審議会の委員意見一覧

目標	委員	ご意見
県の審議会等における女性委員の割合	岩田会長	私の問題意識は、「40%を超えること」ということではなく、平均で40％でも、個々の審議会等を見ると、女性比率が非常に低い審議会がまだまだあります。そこが問題だと思いますので、目標値として「40％を超えること」はよろしいのですが、「※40％を超えてさらに上昇をめざす」とするのではなく、「※女性比率が低い審議会を中心に、さらに上昇を目指す」というような趣旨のことを、書いていただくのがいいのではないかということが私の意見です。 40％をさらに高めると言っても、すでに女性比率が５割を超えているようなところを上げても、本当に望ましいことなのかというとそうじゃないように思います。そのため、平均を上げるということではなく、やはり女性比率が低いところをどのように上げていくのかが、目指すべき目標ではないかなと思いますので、是非ご検討いただければと思います。
	井上委員	数値について賛成したいと思っています。
民間事業所の男性の育児休業取得率	岩田会長	年度の実績を見てからということでもちろん結構ですが、国の目標値としては、野村委員が言われた、こども未来戦略方針の50%(2025)以外に、男女共同参画基本計画の30%(25%)があります。少なくとも国の30%目標よりは、当県の目標は上回らないとおかしいので、実績においても上回っていますし、それから大規模事業所の目標ですから、是非この2025年30％は、大きく上回るような、そういう目標設定にしていただきたいと思います。
	白河副会長	2023年度結果に関しては、国の数値にも含まれていないかもしれませんが、新設した「産後パパ育休」の数値を見ていただきたいです。
	野村委員	確か政府の目標では2025年までに50％という目標があったかと思います。国の実績値をみると達成は難しそうですし、国の実績値を上回っている神奈川県でも2025年までには難しいとは思います。しかし、達成見込みを改めて内々の目標でもいいかもしれませんので、2025年までに50％というのが難しいとしてもその差をどう埋めていくか、どう変化を加速してスピードアップさせていくか、そのためにどのような施策を行っていくか、検討していただければと思います。